



# 非正規雇用を規制して労賃アップの年に

東洋経済誌によると  
二〇二〇年の年間賃金は日本は39千ドル、米国は69千ドル、ドイツは54千ドル、韓国は42千ドルとある。

今、多くの若い人は派遣等の非正規雇用。賃上げを望んでも、応じられる筈がない。

二〇〇〇〜二〇二〇年に、韓国の賃金は45%アップ。日本は2%アップ。

図書館等の運営の民間委託は入札。労賃を上げたら落札できない。

アベノミクスで日本の賃金は世界五位から三十位に転落、米国の半分、韓国以下に。

野口悠紀雄一橋大名誉教授は「技術革新もなしに利益を上げ株価が上がったのは労働者を貧しくしたから。これが、アベノミクスの本質」と指摘する。

短期雇用や派遣労働では賃金は上がらない。非正規雇用を規制し、会社は原則的に正規雇用でしか労働者を雇えないようにすべきではないか？一時的な仕事もあると云うなら、非正規の総労働時間が正規雇用のそのの5%を越えたら正規雇用を増やすと云うような規制が必要だろう。

不安定な非正規雇用の賃金はボーナスを考慮して正規雇用より高くなるべきでは？

あなたはどう思われますか？

経済の中心は生産の筈

コロナからの経済回復で自公政権が云うのはGo Toばかり。即ち、旅行や外食。

国の基幹産業である生産に関わる分野を盛

ますか？

## カラスのパン屋さん

長野県北安曇郡小谷村千国乙立屋

二〇二一年十二月



絵本作家かこさとしさんの「カラスのパン屋さん」では：：生まれのカラスが四羽。羽根の色が違い個性も色々。そんな子カラスに振り回されながら次々と楽しいパンを作るカラスのパン屋さんが大評判になる。

「本当にそういうパン屋さんがあったらいいな」の想いから共働学舎が作ったのがこのパン屋さん。著者公認。

絵本にあるような動物パンを作ったり、年末にはクリスマスケーキを配達。

次々とお客さんが訪れる。店の人が留守ならメモとお金を残して行く。

共働学舎は心身に不自由を抱える人達と共に働き、共に生きる場を作るとの思いから、この近くに一九七四年

に作られ、全国五カ所に拡がった。

来週(九日)は休刊します

